人間関係を豊かに

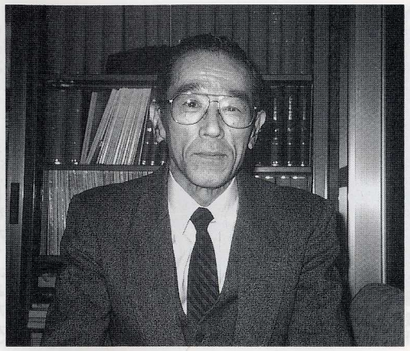
歯学部長　岩本義史

入学おめでとう。

俗に言う受験戦争を切り抜けてきた諸君は勝者の実感を味わい、さらなる青春の夢に希望をふくらませているに違いない。そして、これまでとは違う新たな人との出会い、大学という自分にとって新たな環境との出会いに向けて、新たな快い緊張の中に身を置いていることであろう。

歯学部に入学してきた諸君は、その動機はともかく、今や全員が六年先に歯科医師になることを目指していることは間違いあるまい。そこで、歯科医師とは何か、その概念のさわりの部分を最初に触れておきたい。

今から二百年以上も前、歯抜きや入れ歯師がいた。どんな仕事か想像がつくであろう。まさか諸君がそのような者を目指しているとは考えたくないが…。すでに私たちは二十一世紀を目前にしている。歯科領域においても分子生物学を背景にした遺伝子診断、最先端医療技術に基づいた人工臓器、臓器移植と延命医療の応用と試みがなされている。それだけではない。人間（関係）学などの人文科学にベースをおいたカウンセリング、インフォームドコンセントやホスピスなども歯科領域で必要になってきている。

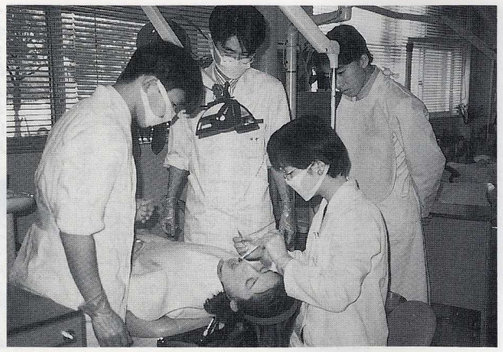


言い換えれば、歯科医師は、単に手に技術を持った知識の集積者であってはいけないのである。幅広く知力、技能、人間性と社会性を持った人間の育成が、歯科医師の素養として求められている。

一方でパソコンなどの発展で、コミュニケーションすら機械と対応して行われるようになり、人間関係の過疎化が生じつつあるように思われる。したがって、人間性、社会性を豊かにするためには、学生時代から豊かな人間関係を持つ努力をすることが必要であろう。同時に、一見歯科領域とは関係の無いようにみえる教養的教育の学習が、人間性を豊かにするのに大いに役立つことを強調したい。

入学一年目の充実が、諸君の将来の歯科医師の基盤づくりであることを信じ、諸君の実り多い六年間を期待している。

（いわもと・よしふみ）



意義ある学生生活とするために

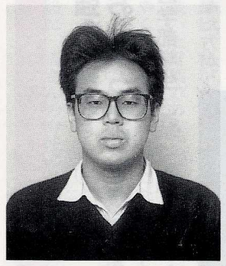
歯学部学生　青戸一司

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。受験勉強も終わり、自由な学生生活を満喫していますか。私も、新生活に戸惑いながら期待に胸を膨らませていた日々を思い出します。

ところで皆さん、歯学部に入学した時点で一生を貫く仕事を選択した、とは思わないでください。歯科医師だけでなく、上級試験を受けて国全体から歯科医療行政を推し進めていく道、歯科医学の発展のために研究に従事する道、免許を利用して新しいビジネスを起こす道等々、自分の可能性を信じ興味の赴くところを探求していってください。道はいまだ半ばです。

卒業までの長い学生生活のなかで、同じ分野だけでなく自分と異なる分野の人との出会いと、自分の考えを変えてくれる書物との出会いを大切にして欲しい。そのことによって、皆さんの学生生活が意義あるものになることを祈っています。

（あおと・かずし）



工業大学から総合大学へ

工学部長　松村昌信

ご存じのとおり、広島大学はちょうど一年前に統合移転を完了し、昨年の十一月には盛大な記念祝賀会も催されました。いま広島大学の中の工学部を考えるとき、この統合移転の意義を考えざるを得ません。

「工学部は昭和五十七年に第一陣として東広島に移転し、その後十三年間もよくがんばりましたね。でも、統合移転が完了して何か良いことがありましたか」とこの一年間たびたび尋ねられました。新入生諸君は、この質問を受けたらどう答えますか。

「そんな無茶な質問はしないでください。統合前の分散キャンパスでどんな苦労があったのか全く知らないのだから、統合によって何がどう良くなったのか分かる筈ないじゃないですか。その前に、ここは自分にとって初めての大学ですよ。高校に比べて大学はどこが良いか、という質問ならまだ考えてみる気になりますが…。この問題にしても、今から大学生活を経験して少しずつ分かってくることでしょう。統合の効果については、むしろそちらの答はどうなんです。」

諸君のこの回答・ご意見はもっともで、当然至極と思います。実は、私は私の答をもっています。しかし、ここでそれを述べるつもりはありません。理由は、それは教官の答であって学生の答ではないからです。諸君にとっての統合の意義を考えてほしいのです。

「教える気がないなら放っておいてください。そんなことより役に立つことを早く教えてください」と怒るかも知れませんが、ちょっと待ってください。君はさっき「高校に比べて大学生活のどこが良いか」と言いましたね。もし、もしも、君がそう思わなかったら、つまり、高校の生活も大学の生活も同じだと思って大学生活を過ごしたら、どうなりますか。

毎日授業に出て、先生の話を聞いて、試験を受けて、単位を揃えて卒業する。それは高校生活と同じではないですか。大学と高校の違いは何か。と考えないとその違いに気づきませんよ。君の周りに居るクラスメートのことを考えなければ、大学教育は通信教育と大差なく、教壇の先生に質問しなければテレビ講座と同じです。

大学では、自分から考えないと何事においてもその意義に気づかないし、その恩恵にも与れません。折角苦労して入った大学です。いろいろ考えて大学生活を有意義に過ごしてください。この広大フォーラムの工学部以外の記事も、そんなことを考えて読んでみてはどうでしょう。

（まつむら・まさのぶ）

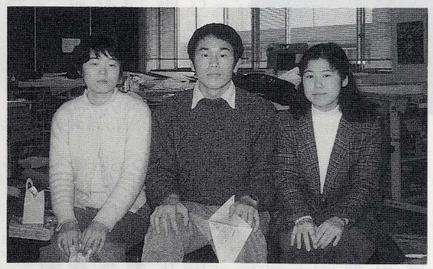
広島

工学部学生　東正明

入学おめでとう。君たちも私たちと同じ広大生です。偉そうですが「新入生へのメッセージ」ということで書かせてもらいました。

工学部といったら一番初めに西条に移転した学部で、古い、暗い。そして男が多くてむさ苦しい。さらに三、四年になると忙しい。ほんっと厳しい。しかし、一、二年の間は華の総合科学部で生活し、他学部とのふれあいがもてるので、とても楽しい。目一杯学生学生してください。

まず、大学に入ってやることは友人をつくることです。同封のチラシのGETTOGETHERというイベントやサークルや体育会に入って、大学生活の基礎となる友人を見つけると、何かと不安な一人暮らしもhappyになるでしょう。



話はかわって、工学部とは、直接社会の役に立ち、自分の将来の職業にも役立つことを勉強している学部の一つだと思っています。だから、勉強することが自分の夢をかなえる唯一の道だ、なんてことは言いませんが、留年はしないよう、ほどほどにがんばってください。最後に、広島を楽しんでください。

（ひがし・まさあき）

工学部って・・・・？

工学部学生　山根美紀　日野佐智枝

こんにちは、みなさん。ここでは、堅苦しいことは抜きにして、私たちの自己紹介から始めたいと思います。私たちは、工学部建築専攻四回生の貴重な貴重な(?)女の子です。

最近女の子の姿も増えました。女の子の目から工学部を見ると、確かに華やかさに欠けています。なぜか、気温も低いような気がします。が、しかし、学業に励んで四年目にもなると、いいところも多々見つかりました。

ざっくばらんなくだけた雰囲気。変な気がねもせず、のびのびできます。その反面、上に上がるにつれて忙しくなり、やりたいことも制限されてきます。ですから、今のうちから自分のやりたいこと、例えばバイトやサークルなど、積極的に取り組んでおくべきでしょう。

西条というところは、学生にとっては刺激の少ない場所なので、自分からやる気を出さなければ、大学生活がつまらないものになりかねません。

みなさんには時間もチャンスもたくさんあるのですから、大学生活をふり返った時に後悔のないように…！

言いたいことは分かりますね。それでは、さようなら！

（やまね・みき）
（ひの・さちえ）